

## パーキンソンの法則（後編）

**後**編は前置きなしで早速、本題の第2法則“**支出の額は、収入の額に達**

**するまで膨張する”**についてお伝えします。資産形成に大きく関わってくる法則です。こちらは具体例よりも私が経験した実例をお伝えする方が理解しやすく共感いただけると思いますので、少々恥ずかしいですが皆さんのお役に立てれば幸いです。

皆さんのご家庭は、夫婦どちらが家計を管理していますか？ 妻？夫？それとも別々の会計？各家庭さまざまだと思います。そして、自己評価になりますが、それぞれ家計を管理しているあなたは、貯金が得意ですか？ここでは資産形成を分かりやすく、敢えて貯金と表現します（実質的には預貯金でなくても、投資でも構いません）。家族の中だけでなく「知合いの〇〇さんは貯金が得意だから」だったり、同じくらいの収入の「会社の同僚の〇〇はお金持ってるからなあ」とか、もちろん夫婦どちらかが貯金得意だったり、その逆もあったりしますよね。貯金が得意か下手かの原因や、序盤に出て来た『貧乏父さん』のように見た目は裕福そうな生活をしているけど資産が残っていない（現金が残らない）状態になってしま

う原因は、この第2法則が大きく関わってきます。

私たち夫婦は子ども4人と愛犬(さくら)と暮らしています。大分に引っ越すタイミング、つまり今から約8年前にマイホームを購入し、地方では必需品の自家用車を2台所有しています。ご想像の通り、毎月それなりの支出があります。今の支出がどのように増えて行ったかは、理由を上げればいくつもあります。子どもが増えたから、車を持つようになったから、食費がかかるようになったから、中学生2人が私立の学校に通うようになったから、**妻の浪費癖が激しく、私が毎日のように朝帰りするほど飲んでいるから……**。最後の2つは嘘です。もしそうであれば、わが家は所謂パーキンソンの法則にどっぷり嵌り、家族はお笑いコンビ・麒麟の田村の著書『ホームレス中学生』のように「解散!」になっているでしょう。冗談はさておき、理由はきちんとあるのですが、法則の文言そのまま、明らかに収入が増えていく過程で支出も増えていった(膨張した)訳です。わが家も、このパーキンソンの法則のせいだったのでしょうか、なかなか思ったように貯蓄出来ていない時期がありました。収入の額に達するまで支出が膨張していたのです。なんか怖いすよね。この状況に気付かず過ごしていると、やはり『貧乏父さん』になってしまうのです。皆さんも思い出してみてください。結婚当初は20万円あれば生活出来ていた

のに、今は 50 万円ないと赤字になってしまう家庭。人によっては、毎月 100 万円あるいは 200 万円収入があっても月々は赤字で、夏冬のボーナスで何とか補填して、年間通したらほんの少し貯金が出来た程度の生活をしている方もいるかも知れません。収入が多いからと言って、多くの資産を持っているとは限りません。そういった家庭の大半はこのパーキンソンの法則に知らず知らず嵌ってしまい、貯金が残らず資産形成出来ていないからです。年収 500 万円の家庭でも 800 万円の家庭でも 1000 万円以上の家庭でも、この法則に嵌っていれば資産（預貯金の残高）はほとんど変わりません。ただ、毎月・毎年その家庭の中を循環しているお金が多ければ、消費出来るお金が多くなるので、豪華な家や高級車や贅沢な食事は可能です。それなら、別に何の問題もないじゃないかと思われるかも知れません。一生懸命働いて稼いだお金を自由に使っているのだから……。しかし、収入の過多に関わらず資産がきちんと形成出来ていないと、コロナ禍のような状況や、今後頻繁に起こるであろう自然災害や、人生思ってもみない“マサカ”のような状況が起こった時に、膨張した支出をどのようにコントロールすれば良いのでしょうか？この法則の怖い所は、支出の額は、収入の額に達するまで膨張はしても、収入の額に応じて縮小することはないということです。両方が成り立てば良いのですが、そうならないから怖

ろしいのです。一度生活レベルを上げると下げることは容易ではないと言  
う現実を皆さんも感覚的に知っていると思います。このある意味怖ろしい  
法則は、まずは知ることがとても大切だと思います。学校では教えてくれ  
ないこの法則を知っていれば、今現在資産形成が上手くいっていない理由  
を明確にすることが出来ます。そして、この恐ろしい法則から抜け出す方  
法を知っている人に助けを求めることが出来ます。皆さんには以前『**資産  
形成 ABC**』と言うコラムを提供させていただいたと思うので、そちらを  
参考にしてください。内容についてや具体的な仕組み作りについて知りた  
い方は、気軽にお尋ねください。余談になってしまうかも知れませんが、  
教育セミナーで私が取り上げる著書『学力の経済学』小室牧子著の中で出  
てくる、家庭の経済力（資産）と子どもの学力についての相関関係につい  
て、比例の関係にあるという統計が出ています。下世話な TV 番組で、東  
京大学合格者の親の年収が〇〇円以上の家庭が多いと言ったような統計  
を、皆さんもご覧になられたことがあると思います。しかし、私は単に年  
収〇〇万円以上と言う考え方より、資産〇〇円以上の統計の方がより現実  
的ではないかと思います。親の年収に関わらず、子どもの将来のためにき  
ちんと教育費を準備出来る家庭の方が、年収は多く一見派手な生活をして  
いるけど、再三登場している貧乏父さん家庭より学力は高くなるのではな

いかと思います。『子どもは親のことを良く見ている』みたいなことも大分県出身のスーパー教育ママ・佐藤亮子さんも言うておられました。

**2**020年7月現在、まだまだ新型コロナウイルスの影響は続いています。このコロナ禍で日本政府は大量の国債を第1次および第2次補正予算で発行しました。国債の大量発行により国の財政は将来に渡って大きな影響を受け、税金や社会保障にもその影響は及ぶとされています。現況のコロナ禍で現金の有難みや必要性を再認識した方も多いと思います。数ヶ月収入が下がっても耐えるだけの預貯金（資産）。会社経営をしている方はもっと切実で、売り上げが急激に下がり資金繰りに困った際も現金さえあれば会社は経営していけるという現実には直面した方も多いと思います。そして、将来起こりうる自然災害や新たなパンデミックに対して、パーキンソンの法則に反して（負けることなく）、今から資産（現金）をきちんと形成していきましょう！

**備えあれば憂いなし！！**

**転ばぬ先の杖！！**

S L 2 3 0 8 - 3 2 2 0 - 6 6 6 6

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟